今期４年目を迎えるにあたって

（新型コロナ対策の推進）

本格的な令和時代の幕開けとともに始まった新型コロナウイルスとの戦いが、現在も続いている。

再び感染が拡大しつつある中、これまでの対応を評価・検証し、医療・検査体制の更なる強化につなげていく。新たな生活様式「ひょうごスタイル」や業種毎の感染拡大予防ガイドラインの定着も図り、感染拡大に歯止めをかけねばならない。

こうした基盤の上に、大きな打撃を受けている地域経済の回復に向け、社会活動の活性化、観光業・商店街等の実需要を喚起する取組を推進する。

（ポストコロナ社会としての情報化、グローバル化）

今回の事態は、コロナ禍以前から指摘されていた様々な課題も浮き彫りにした。

広域の課題である“情報化とグローバル化への対応”。日本社会のデジタル化がいかに遅れていたか、痛感させられた。５Ｇなど高速・大容量通信に対応する「ひょうご情報ハイウェイ」の増強をはじめ、Society5.0 時代に不可欠な情報通信基盤の整備を進めなければならない。

世界との結びつきは、中長期的に見れば、情報技術の進展により更に強まるであろう。一方で過度な海外依存への懸念に対応するためにも、生産拠点の県内回帰やサプライチェーンの強化・再構築を図らねばならない。

（地域の活性化）

“地域の活力の維持・活性化”という狭域の課題への対応も急務だ。

兵庫でも地域偏在が拡大し、人口流入により持続可能な地域と、地域社会の存立が危ぶまれる地域に二極化しつつある。

一方、人口の稠密という大都市の脆弱性や東京一極集中の弊害が改めて明らかになる中、テレワークやＵＪＩターン、二地域居住など新たな可能性が見えた。

今こそ、人の流れを東京から兵庫へ。県全体として社会減をなくし、都市部以外の地域活力を持続させる。そして、それぞれの地域の強みを活かし、自らの手で地域の自立を進めるべく、地域創生の取組を加速させねばならない。

（兵庫の未来への道筋をつくる）

明治の開港以来、海外の文明を取り入れ、日本の発展を牽引してきた兵庫。だからこそ、社会を単に元に戻すのではない、ポストコロナ社会の創造に果敢にチャレンジしていく決意である。

５期目もあと１年を残すのみとなった。2030 年のめざす姿と新たな兵庫づくりの基本方針等を示した「兵庫 2030 年の展望」の具体化や、2050 年の兵庫の姿を描く「新しい将来ビジョン」の検討を通じて、兵庫らしい新しい社会の実現に道筋をつけるため、県民の皆さんとともに全力をあげて取り組んでいきたい。

令和２年７月 27 日

兵庫県知事　井戸 敏三

兵庫の未来への道筋

１　新型コロナウイルス感染症の拡大防止と地域経済の回復

⑴医療・検査体制の充実

・新規陽性患者発生状況に応じた、病床数や宿泊療養室数の体制強化
・検査自動化システムの導入などによる、2,500件/日の検査体制の確保
・圏域単位での地域外来・検査センターの設置

⑵感染拡大防止対策の推進

・濃厚接触者等の把握を含めた積極的疫学調査の徹底
・兵庫県新型コロナ追跡システムの推進
・新たな生活様式「ひょうごスタイル」と業種毎の感染拡大予防ガイドラインの定着
・社会福祉施設や中小事業者、商店街、宿泊施設等における、分野毎のきめ細かな感染拡大防止対策の支援

⑶事業継続や需要喚起の支援

・中小企業の事業継続のための資金繰り支援（６資金、融資枠１兆円）
・観光業や商店街、県内農産物などの需要を喚起するキャンペーン等の展開
・防災・減災、国土強靱化対策など公共事業の推進

⑷雇用維持の支援

・離職者対策の推進
・雇用の維持のため、人手不足の事業とマッチングする「兵庫型ワークシェア」の推進

２　情報化、グローバル化への対応

⑴スマート兵庫の基盤整備と活用

・高速・大容量通信に対応する「兵庫情報ハイウェイ」の通信容量の増強
・工場・事業所のスマート化支援など、ローカル５Ｇの導入の推進
・ＩＴベンチャーの育成支援など、情報化先進県をめざした取組の推進
・生産性の向上と農作業の効率化を図るスマート農業の推進
・MaaS(※)の導入促進や自動運転実証事業の推進
（※ 出発地から目的地までのルート検索・予約・決済のワンストップサービス）
・児童生徒の端末整備や緊急時における遠隔授業の環境整備など、学校における ICT 環境の整備の加速化

⑵兵庫の強みを活かした産業の育成

・起業プラザひょうご、国連プロジェクト・サービス機関(UNOPS)のグローバル・イノベーション・センター(GIC)の連携等による起業・創業の活性化
・ひょうご神戸・大阪・京都の３地域が連携、「スタートアップ・エコシステム グローバル拠点都市」を整備
・ポストコロナ社会を先取りする新技術・新産業の創出や、デジタルトランスフォーメーションの推進
・「富岳」の共用開始に向けた FOCUS スパコンの増強及び人材育成
・生産拠点の県内回帰やサプライチェーンの強化・再構築の支援

⑶ ＩＣＴ基盤を活用した多様な働き方の推進

・テレワークやワーケーション、ギグエコノミー(※)、フリーランスなど、一人ひとりのライフスタイルやライフステージに応じた働き方の選択肢の拡大

（※ ギグエコノミー：インターネットを通じて単発の仕事を受注する働き方）

⑷ 持続可能な環境の創造

・脱炭素社会を見据えた再生可能エネルギーの導入拡大、水素エネルギーなど次世代型エネルギーの開発・普及の促進

・ワンウェイプラスチックや海ごみ対策など、資源循環型社会の構築に向けた取組の推進

３　未来の活力の創出

⑴ 交流・環流の促進

・マッチングサイトの活用等による、若者・女性などの県内就職の促進

・カムバックひょうごセンター・ひょうご移住プラザにおける相談・情報提供や、ひょうごｅ－県民制度の活用による、県内への移住の促進

・二地域居住、都市農村交流の促進

・地域再生大作戦のさらなる展開

・大阪湾岸道路西伸部や播磨臨海地域道路など、基幹道路ネットワーク整備の推進

⑵ 魅力あるまち、地域の整備

・耐震性を備えた県庁舎建替と、にぎわい・交流を生み出す周辺地域の再整備

・都市型創造産業(IT、デザイン等)に資するオフィスやホテル、レストラン等の集客施設の立地促進による六甲山の活性化

・コロナ禍を踏まえた、適密・適疎で快適な空間づくりに向けた取組の検討

⑶ 芸術文化・スポーツの振興

・芸術文化公演の再開、県民が芸術に触れる機会の創出を推進

・ワールドマスターズゲームズ 2021 関西の開催準備及び機運醸成

４　安心で全員が活躍できる社会の実現

⑴ 子育て環境の充実

・更なる保育定員の拡大や保育人材の確保による、待機児童の解消

⑵ 高齢者への支援の充実

・定期巡回・随時対応サービス事業者の参入促進など、高齢者が望む形で介護を受けられる基盤整備の推進

・介護ロボットや ICT 機器の導入による介護現場の労働環境改善、生産性の向上

⑶ 障害者への支援の充実

・鉄道駅舎や住宅のバリアフリー化の推進

・視覚障害者の情報取得促進など、ユニバーサル社会づくりの推進

・県独自のジョブコーチ制度による、障害者の就労・職場定着への支援

⑷地域医療の確保と健康づくり

・地域における医師等の医療人材の確保、在宅医療・地域医療連携の推進
・広域的ながん検診受診体制の構築

⑸未来を担う人材の育成

・文理融合型教育「兵庫型ＳＴＥＡM教育」の展開など、問題解決力や創造力を備えた人材の育成
・医産学連携拠点の整備・運用や大学院の再編など、県立大学改革の推進
・国際観光芸術専門職大学（仮称）の令和３年４月開学に向けた取組の推進

５　兵庫の発展を支える安全な基盤の確立

⑴防災・減災対策の推進

・地震・津波対策、河川対策、高潮対策、土砂災害対策、ため池の防災力向上など、防災・減災の基盤づくり
・新型コロナに対応した避難所運営ガイドラインの活用による、自然災害と感染症との複合災害への備え
・マイ避難カードや避難行動要支援者に対する個別支援計画の作成等による県民の避難行動の向上

⑵安全な地域づくり

・クロスボウ（ボーガン）の規制強化

６　ポストコロナ社会に向けた新たな兵庫への道筋づくり

⑴リーディングプロジェクトの推進

・兵庫 2030 年の展望の具体化を図るリーディングプロジェクトの推進

⑵地域創生の推進

・第二期地域創生戦略に基づく、人口減少下でも活力ある兵庫づくりの推進
・県民・企業・行政が一体となった地域プロジェクト・モデルの展開

⑶新しい長期ビジョンの検討

・県民からの提案やポストコロナ社会兵庫会議からの提言も踏まえた、新しい長期ビジョン検討の本格化